



大西 則宏

山口町長の政治姿勢と責任の所在を問う！

山口町長の政治姿勢に対する不安、不信、自己認識並びに責任の所在について

意見を、非常に重く受けとめているので、少しでも解決するという方向に向かって進めていきたい、と考えている。

問 行政は、課題を先送りできない最終判断機関である。今日まで、能勢町民の福祉向上について何をされてきたのか。町政の変革をきっかけ、能勢町民の負託を受け就任された山口町長は、どのよう自己認識し、責任の所在をどう考えているか。

四年という任期のうちまだ一年四カ月が経過したところなので、平成26年度については、具体的なものが少しずつ描けていけるのではないかと思う。迅速に対応するということは、重要であると認識しているが、今のところ逃げずに、と考えているので、ペーシングが遅いと感ぜられるかもわからないが、必ず一つ一つ前進できるように、と思っている。

答 一年四カ月が過ぎ、課題を全て解決して前進していないという大西議員の指摘だが、物事には順序というものがある。それぞれの課題に対して地域へ出向きしっかり話しあうことも含めて、取組んでいきたいと思う。タウンミーティングでいただいた

申し入れ まだ、一年四カ月が経過したところと申されたが、平成26年度の予算編成を審議するということは、実質的に任期の折り返し点はもう通

過したということである。この段階においても方向性、責任感が見えてこない。町政運営方針にある山口町長の強い気概・能勢町トップとしてのリーダーシップが感じられない。能勢町にとって重要なこの時期において、山口町長のそのような答弁では、必要な予算は認めることはできても、その執行、実現を山口町長には望めない。このような状態を続けることは、能勢町住民にとって大きな不幸であると思えてならない。重要な予算審議の今議会には、山口町長の答弁を辞し、後進に道を譲るという覚悟を持って臨んでいただきたい、と強く申し入れる。

一般質問



長尾 義和

改めて町長の政治姿勢を問う

問 選挙公約違反と言われても仕方がないのではと考えているか。

答 選挙公約に反し、申し訳ないが果たされていない、もう一度精査し、当面は2小1中だと言われていた。しかし、就任4カ月後には1小1中を決定された。公約違反と言われても仕方がないのではないか。

問 町長は、『学校再編に關し、地域への説明責任』

答 保護者の声を聞き一定の方向性を出した。説明も十分とは言えないが行ってきた。その結果、選挙公約と違うことになり、非常に申しわけないと思っている。

問 通学路としての町道平野線は進ちよくしているのか

答 地権者等に丁寧に説明し、努力していく

問 昨年10月にバイパスでの整備を決定された。用地買収費は平成25年度の当初予算に計上されていたが、現道拡幅がバイパスが二転三転していた。その原因は何か。

答 平成28年4月の開校にバイパスが本間に間に合うのかという迷いから現道拡幅ということも考えてきた。

問 火葬場用地造成は、なぜ地元配慮ができなかったのか

答 当初予算のとおりバイパスを進めていけば進

問 5千万円以上の工事であり、一般競争入札は理解するが、なぜ、大阪府内の業者に限定したのか。

答 新たな入札制度を考えると、町内業者に限定することはできなかったのか。

問 一般競争入札では範囲が広くなり過ぎ、事務手続きにおいて煩雑になる。大阪府内業者に限定することで、指名委員会

答 金額、工事規模等から考えると、できないということはない。

問 町長は、選挙中から『地元優先、誰が税金を払っているのか。地元でできることは地元で。』と言われているが、言動がともなっていない。

答 基本的には地元業者を大事にしていかなければならないが、金額的なことを含め、大阪府内の業者限定とした。

問 工事の規模から考え

答 新たな入札制度について検討していく。